足立租税教育推進協議会　会長賞

「誰かを笑顔に。」

足立区立　新田中学校

三年　櫻井　陽夏

私は中学一年生から、「ジュニアリーダークラブ」というボランティア活動をする団体に所属している。主に地域の子どもたちとゲームやキャンプを通して交流し、リーダーシップなどのスキルを身に付けることを目標に活動している団体だ。その他にもお祭りなどの地域の行事を手伝ったりしている。もちろんボランティア活動だから報酬はないが、全員が強い意欲を持ち、何より楽しみながら活動している。

それというのも、クラブ員は全員小中学生のときにキャンプや研修会に参加しており、そこで楽しませてくれたジュニアリーダーの先輩方のようになりたい！と憧れを抱いて入会した人がほとんどだからだ。私もその一人である。当時キャンプに参加した私は、最初こそ緊張していたがクラブ員のお姉さんが明るく話しかけてくれたおかげで、初対面の仲間とも打ち解け、笑顔の絶えない最高の思い出となった。そんな誰かを笑顔にできるジュニアリーダーは素敵でとてもやりがいのある活動だと思う。

そしてこの活動を支えているのが、実は「税金」である。私達の活動費の多くは税金で賄われている。もし税金がなくなってしまったら、活動自体ができなくなってしまう。あるいは参加する子どもたちは参加を諦めてしまうだろう。さらに、参加する子どもの人数が減ってしまうことで、活動の幅は狭まり次世代のリー

ダーを育てることも難しくなる。こんな状況になると、地域の子どもとの交流の機会が減ってしまう。極端に言えば、誰かを笑顔にする幸せがあると身をもって知ることができなくなってしまう。

今の日本では「税金」は厄介者として見られがちだ。確かに、買い物のたびに一〇%や八%の消費税をとられるのは損をしたような気分になる。しかし、子どもたちが「誰かを笑顔にする幸せ」を知ることは何%の税金を払うことに勝るのではないか。その子どもたちが大人になったとき、誰かを幸せにする幸せを知っていれば、周りの人をどんどん笑顔にさせ、笑顔になった周りの人も周りを笑顔にさせるという「笑顔の連鎖」がつながっていく。笑顔の連鎖で、日本を、世界を笑顔に幸せにしてくれる。こんな素敵な世界が夢物語ではなく本当に作れるのではないか。

私は税金のおかげで「誰かを笑顔にする幸せ」を知ることができた。そのことを今度は大人になったときに税金をしっかり払うことで、次世代の子どもたちに繋いでいきたい。そしてこれからもジュニアリーダーの仲間とともに、日本を、いや世界を「笑顔」にしていきたい。